

菊川支流の地層として軽石層、大石を含む地層を紹介しました。しかし、一番多いのは赤土（私たちが関東ローム層と認識している赤褐色、粘土質の地層）です。

大規模噴火の軽石層や大石を含む土石流の地層と大きく異なる点は、積もるのに要する時間の長さです。これらは非日常の堆積物で、何メートルもの厚さでも、1時間足らずで積もる事も十分あります。一方赤土は、桜島の噴火のような小規模噴火の火山灰や黄砂のような土埃が日常的に少しずつ陸上で降り積もってできた地層で、気の遠くなるような時間がかかっています。だいたい1メートル積もるのに、1万年程度かかるとみていいでしょう。軽石層と軽石層の間の赤土の厚さが2メートルならば、2つの噴火の間隔は約2万年と推定できます。地層もこのように日常と非日常の組み合わせから成っています。



▲きらめきの丘おおい造成で露出した一面の赤土

箱根町立箱根ジオミュージアム学芸員 笠間友博

【おおい自然園 HP】



▲大井町の動植物や自然観察会、虫、石、果などを掲載しています。